



総研大ニューズレター

第70号 2014.3発行

●目次

【今月のトピックス】

- 「平成 25 年度総研大国際シンポジウム開催」 学融合推進センター」
- 「学長イニシアティブ事業 第3回総研大『異分野結合フォーラム』
ー知識結合の拠点形成に向けてーを開催」 学融合推進センター」
- 「サイエンスカフェ『カラスなぜ鳴くの?』ーカラスの鳴き声の研究ー
を開催」 学融合推進センター」
- 「総研大『科学知の総合化』プログラム公開シンポジウムを開催」 生命共生体進化学専攻」
- 「永年の大学運営に感謝する会開催」 財務課」

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定

- 3月2日～8日 生命科学研究所遺伝学専攻 体験入学
- 3月3日 第10回大学院教育研究会
- 3月3日～4日 総合教育科目「専門基礎AI 進化という概念」
- 3月5日 生命科学研究所遺伝学専攻 見学会
- 3月8日 第16回自然科学研究機構シンポジウム
- 3月8日 高エネルギー加速器科学研究所大学院説明会
- 3月10日 学融合研究プロジェクト研究会「温度感受システムの進化生理学」
- 3月10日～13日 物理科学研究科天文科学専攻スプリングスクール「春の体験入学」
- 3月19日～20日 学術交流会
- 3月19日 長倉研究奨励賞 発表会
- 3月20日 長倉研究奨励賞 授与式
- 3月20日 学術情報基盤フォーラム
- 3月20日 学位記授与式
- 3月23日 学融合研究プロジェクト研究会「料理の環境文化史」
- 3月26日 基礎生物学専攻オープンキャンパス 2014・大学院説明会

【今月のトピックス】

- 平成 25 年度総研大国際シンポジウム「遺伝子と文化から明らかにする人類の多様性：アジア・オセアニアを中心に」開催



開催日時：平成 26 年 2 月 3 日（月）～2 月 4 日（火）
開催場所：葉山キャンパス
参加者数：2 月 3 日 62 名、2 月 4 日 49 名

今回のシンポジウムは遺伝学専攻の斎藤成也先生を委員長として、遺伝学専攻、比較文化学専攻、地域文化学専攻、日本歴史研究専攻、統計科学専攻、生命共生体進化学専攻の研究者が中心となって企画されました。その目的は、人間社会における「多様性」をキーワードとして、主として遺伝子と文化の面から、現生人類の地球上への拡散につれてそれぞれの多様性がどのようなパターンで変化していったのかを明らかにすることです。

2 月 3 日（月）、オープニングは高畑尚之 総研大学長の「ヒトの系統における人口動態と自然淘汰」の集団遺伝学の理論的な話から始まり、引き続きセッションにおいて人類の多様性に関する発表が行われました。

オーストラリア国立大学の Bellwood 教授からは石器時代におけるフォルモサからラピュタへの人類集団の移動について考古学、言語学、遺伝学の知見を積み重ねた研究成果の発表がありました。Matisoo-Smith 教授（オタゴ大学）は太平洋の先史時代のヒトの起源や歴史について様々なエビデンスを示し、これまでの定説を再考する必要があることを提案しました。本学地域文化学専攻の印東道子教授はオセアニアにおけるヒトの移動と文化交流について、文化人類学的な視点で考察しました。マックスプランク研究所の Stoneking 教授は古代台湾人のミトコンドリア DNA 配列を用いた解析に基づき、台湾に辿りついた人類が台湾を通過してオーストロネシアに拡散したという考えを述べました。大分大学医学部の山岡吉生教授はよく知られた病原体であるヘリコバクター・ピロリをヒトの集団の先史時代の足跡をたどるための有用な遺伝子マーカーとして利用し、沖縄で古い時代に分岐したピロリ菌の菌種があることを見つけました。さらに本学日本歴史研究専攻の坂本稔教授からは考古学研究において重要な手法である年代測定法について現状と課題について報告がありました。また、言語研究の側面からは、日本語を世界の諸言語と対照させることによって、日本語の特質を解明する言語類型論的研究を行っている Whitman 教授（国立国語研究所）はカダイ諸語、オーストロネシア語、日本語の再評価した研究を発表しました。

このように考古学、言語学、遺伝学、文化交流の観点などさまざまな角度からヒトの移動とヒトの多様性についての研究成果が発表されました。『人間社会における「多様性」』というキーワードは同じでも研究分野は様々です。通常の学会ではなかなか同時に議論することができない研究者が一堂に会した本シンポジウムでは質疑応答も活発に行われました。それは、この日の夜の懇親会でも続き、日本酒やビールを片手に料理やポスターの前でも熱い議論が交わされていました。



第 2 日目 の 2 月 4 日（火）はいくつかのテーマごとに研究報告が行われました。

遺伝子あるいは言語を指標としたヒトの移動というテーマでは本学生命共生体進化学専攻の五條堀淳助教から、ミトコンドリア DNA のデータを用いた新世界におけるヒトの移動ルートや集団サイズの推定に関する発表があり、本学比較文化学専攻の菊澤律子准教授からはオセアニアにおける文化交流と言語の多様性について発表がありました。

また、Lum 教授（ビンガムトン大学）からは太平洋において人口の増減への影響、文化交流と近代化に伴う慢性疾患を引き起こすことが考えられているマラリア関連遺伝子を用いてヒトの起源や近年の代謝的適応についての発表がありました。Phipps 教授（モナッシュ大学）からはマレーシアの先住民のいくつかの集団を中心に核 DNA やミトコンドリア DNA を用いた遺伝学的解析を行い、ボトルネック効果などの進化的に面白い知見を見つけたことが報告され、総研大出身の遺伝学研究所の Jinam 博士研究員からはマレーシア人とフィリピンの少数民族の一つネグリト人のゲノムワイド SNP の解析を用いてネグリト人は非ネグリト人とのアドミクスチャーがあるにもかかわらず、他の集団とは遺伝的に違いがあることが示されました。

次のテーマである家畜化と栽培化の問題については本学比較文化学専攻の Matthews 准教授が食用サトイモについて遺伝的多様性を調べ、アジア太平洋地域におけるサトイモの起源と広がりについて発表がありました。本学生命共生体進化学専攻の本郷一美准教授は西南アジアの動物考古学の研究成果を基に早期新石器時代における資源開発と食糧生産への移行について話をされ、生命共生体進化学専攻の修了生である高橋遼平博士研究員（先導科学研究科）も動物考古学の観点から先史時代の琉球諸島にイノシシの導入の時期について古代 DNA 分析に基づいた研究を発表しました。さらに農業生物資源研究所の熊谷公彦 博士研究員は古代 DNA と近年のゲノム情報によって米の栽培化について検討を行い、東アジアの古代のイネに予想以上に遺伝的多様性があったことを示しました。

最後はヒトの集団遺伝学的解析による研究発表でした。本学統計科学専攻の間野修平准教授は集団遺伝学における Approximate Bayesian Computation (ABC 法) について、その理論と応用例について報告しました。遺伝学専攻の井ノ上逸朗教授は 6 番染色体上の HLA 領域は免疫疾患を中心として様々な病気との関係が調べられている医学的にも重要な領域ですが、この領域の多型を調べ、日本人集団は様々な混合された起源を持つことを確認したことを報告しました。本シンポジウム唯一の学生である遺伝学専攻の神澤秀明氏は古代 DNA 縄文人のミトコンドリアと核 DNA 両方を解析し、特に縄文人、ネアンデルタール人、デニソワ人の核 DNA 配列から日本人の歴史だけでなく、東ユーラシア人の起源と集団構造についても考察しました。最後の発表者である遺伝学専攻の齋藤成也教授はゲノムワイドの SNP データ解析から日本列島に住む人類集団の起源やどのように成立したかについて詳細な研究を報告しました。



本シンポジウムは総研大が目指す学融合研究プロジェクトの成果の一つでもあります。同じ目標に向かって研究を進める時、自然と分野の境界は交わり、大きな成果をもたらすということを実感できたシンポジウムでした。

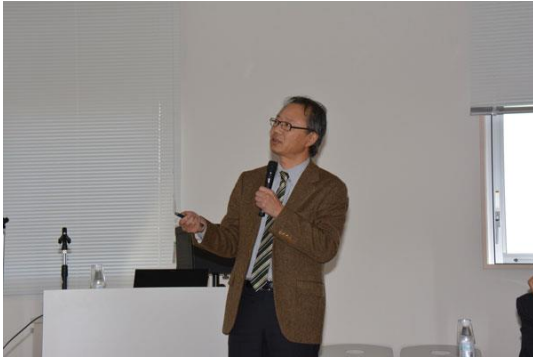
【文責 学融合推進センター 講師 岩瀬峰代】

● 学長イニシアティブ事業 第3回総研大『異分野結合フォーラム』—知識結合の拠点形成に向けて—を開催



平成 26 年 2 月 6-7 日の二日間、総研大葉山キャンパスの学融合推進センター棟 1 階ホールにて、第 3 回総研大「異分野結合フォーラム」～知識結合の拠点形成に向けて～が開催されました。全部で 10 件の講演が各 1 時間あるという密度の高いもので、各講演はいずれも大変興味深いものでした。しかし、少し残念だったことは、このフォーラムが学生にも開かれていたはずですが、学生の参加者はわずか 1 人で、大部分の聴衆は名誉教授か年配の教授連のお年寄りばかりだったことです（私も含めて）。次回がもしあるならば、今度は、若手を引き寄せる、すごいキャストを 1, 2 名呼ぶことも必要かも知れません。

私が最も興味深かったのは、堀田先生の「異分野を渡り歩く」でし



た。堀田さんのお話は、いつもわかりやすく、今回も自分の研究歴に絡めて、20世紀初頭の生命科学の第一革命から、分子生物学、そして、最近のゲノム科学までのお話をされました。最後に、印象に残ったのは、「自分はずっと一本道を進んできた。異分野を渡り歩いたわけではない」とおっしゃったことでした。現在、最先端の研究の多くが学際的であり、それ自身異分野融合的なのですが、分野を超えて一本道を進んできたとおっしゃったことに感心しました。

さて、今回のフォーラムの特徴は、「博士課程リーディング大学院構想」のお話が二つあったことです。

私が座長を務めたためもありますが、阪大の小林先生のお話は大変興味深く拝聴しました。小林先生は、大学院における高度教養教育の必要性とその取り組むべき課題についてお話され、総研大としても大変参考となる内容だったと思います。私は、私自身の反省も込めて、現在の日本の大学院教育に対する弊害の大きな部分が、大学院入進学時の学生の流動性の欠如にあると思います。その意味で、総研大の大学院入学生は、全てフレッシュマンで、他の大学から新たに入学してきた学生達ばかりですので、他の大学に先駆けて、大学院における高度教養教育を実現できる可能性を秘めているのではないかと思います。そのためには、各基盤の先生方の理解と協力が必要です。

最後になりますが、実は、フォーラム期間中に体調を崩しまして、懇親会に出席できなかったことが大変心残りではあります。



【文責 学融合推進センター 特任教授 桑島 邦博】

● サイエンスカフェ『カラスなぜ鳴くの?』—カラスの鳴き声の研究—を開催



2月1日に逗子市の理科ハウスにてサイエンスカフェの機会をいただきました。小学生の参加者もいると伺いましたので、なるべく親しみやすいテーマということで、野口雨情さんの「七つの子」とかけまして、「カラスなぜ鳴くの」というタイトルで、私の行ってきたカラスの鳴き声の研究を紹介しました。余談ですが、カラスは一度に7羽も子を産みません。繁殖期の卵巣の状態から、何羽の卵を産むかが推測できますが、過去に解剖

したカラスをみると、4羽程度が通常ようです。この「七つの子」というのは、雨情の息子が7歳のころに作られた曲で、山に帰るカラスと家に帰る雨情自身を重ね合わせたという説が有力ようです。

今回参加していただいた方は8歳から90歳までの実に幅広い年齢層でした。私の場合、市民の方にも興味を持っていただきやすい身近なテーマであることに救われており、参加者の皆さんから積極的に質問やご意見をいただきました。その中で最も印象深かった質問を紹介します。小学生の女の子から出た「カラスはなぜ黒いのですか?」という質問です。驚いたことに、彼女は自分の仮説を持っていました。「体が黒ければ太陽の光で体をすぐに温められるので、ごみの日に早く餌を探しに行ける」という仮説です。この仮説が正しいかどうかはさて



おき、そもそもなぜカラスが黒いか、なんてことは真剣に考えたことはありませんでした。

ここ最近では応用研究や成果にばかり目を向けておりましたが、彼女の問いとその仮説は、ピュアな気持ちで疑問と向き合うというサイエンスの原点に私を立ち返らせてくれました。話題提供の立場ではありましたが、私にとっては大変勉強になった有意義な2時間でした。



【文責 学融合推進センター 助教 塚原直樹】

●総研大『科学知の総合化』プログラム公開シンポジウムを開催

「科学知の総合化」プログラムでは、総研大のミッションである「高い専門性と幅広い視野をもった高度専門人材」育成のため、とりわけ「幅広い視野」の涵養のための教育プログラムの開発・実践を行っています。その今年一年の活動報告として、また今後のより良い大学院教育の在り方を議論するための場として、2月23日に公開シンポジウムを行いました。

シンポジウムでは、「科学知の総合化」プログラムの実施主体となっている先導科学研究科における「科学と社会」教育のこれまでの状況と2013年度の科学知プログラムの活動、国内外における関連教育プログラムの動向、そして「科学知の総合化」プログラム教育促進事業で採択された基盤機関の先生方のご活動についての報告が行われました。その後、文部科学省の斉藤卓也氏からのコメントと問題提起がなされ、フロアを交えての議論が活発に行われました。

今後の高度専門人材、とりわけ研究分野を先導することになる研究者にとって必要とされる素養とはどのようなものか。研究全体を俯瞰し将来を設計するビジョン、研究活動の社会的基盤への理解力、異なる専門性を持った人たちと協働する力をどのように涵養するのか、アイデアと議論が交換されました。「科学知の総合化」に関わるメンバー一同、今後のより良い大学院教育の在り方に向けての活動に活用していきたいと考えています。



<シンポジウム概要>

総研大「科学知の総合化」プログラム公開シンポジウム～大学院における「科学と社会」教育の今後～

日時：2014年2月23日（日） 14時～17時00分

場所：東京コンファレンスセンター品川・4階406室

【14：00～14：10】 開催挨拶

【14：10～14：45】 総研大における「科学と社会」教育の取り組み
長谷川真理子（総合研究大学院大学先導科学研究科長・教授／「科学知の総合化」特別委員会主査）

【14：45～15：00】 「国内外における『科学と社会』教育の状況」についての紹介

【15：00～15：40】 「科学知の総合化」教育促進事業からの話題提供

「科学技術倫理と知的財産権」ネット教材制作

児玉晴男（総合研究大学院大学文化科学研究科メディア社会文化専攻・教授）

「放射線および放射線検出器に関する講演」

田中秀治（総合研究大学院大学高エネルギー加速器科学研究科素粒子原子核専攻・准教授）

【15：40～15：50】 休憩

【15：50～17：00】 総合討論

コメンテーター：斉藤卓也

文部科学省 大臣官房 政策課 評価室長／（併）科学技術改革タスクフォース戦略室長／（併）科学技術・学術政策局 政策科学推進室次長

【文責 生命共生体進化学専攻 標葉隆馬】

● 『永年の大学運営に感謝する会』が開催



平成 26 年 2 月 28 日（金）、横浜の某高層ビルの一室において、現、(財) 好仁会 小山五朗 理事長（元総研大事務局長）を中心とした総研大 OB 会のひとつであるナマズ会後援により、本年度限りで退職される高畑学長、及川教授、赤塚事務局長への『永年の大学運営に感謝する会』が開催されました。

参加者には、大高弘士氏（現山梨大学教学支援部長）、文部科学省からは岩瀬鎮男氏（高等教育局医学教育課長補佐）をはじめ、東京工業大学、筑波大学、横浜国立大学、高エネ研、総研大、遠方からは弘前大学からなど有志ら総勢 30 名が集まり旧交を深めました。

高畑学長にあっては、教育研究交流センター長、先導研研究科長、副学長、学長を歴任し 20 年間という長きに渡り、及川教授にあっては教育研究情報資料センター長、附属図書館長、学長補佐を歴任し 18 年という長きに渡り、また、赤塚局長にあっては総研大創設時には文部省の担当者として、また、本学事務局長として 4 年間に渡り、総研大運営にご尽力いただきましたことを改めて感謝申し上げます。



【文責 財務課】

【各種募集】 現在公募中の情報

応募期間	イベント名称・提出先	参考URL
平成26年6月30日(月)必着 (研究集会第2回)	平成26年度国立天文台共同開発研究等 国立天文台研究支援係	http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/kouryuu/koubo/kyodokaihatsu/index.html

【イベント情報】

●総研大の行事

3月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
2日(日)– 8日(土)		生命科学研究科遺伝学専攻体験入学 国立遺伝学研究所	http://www.nig.ac.jp/jimu/soke n/html/nyugaku/taiken/taiken.html
3日(月)	10:00–14:00	第10回大学院教育研究会「研究と生活の調和を目指して–ワタシ的なことと研究のこと–」 総研大・学融合	http://www.soken.ac.jp/event/20140303/
3日(月)– 4日(火)	9:00–18:00 9:00–18:00	総合教育科目「専門基礎A I 進化という概念」 国立民族学博物館 院生演習室	http://www.soken.ac.jp/event/201403_ics_a1_jpn/
5日(水)	12:15–18:00	生命科学研究科遺伝学専攻見学会 国立遺伝学研究所	http://www.nig.ac.jp/jimu/soke n/html/nyugaku/taiken/taiken.html
8日(土)	10:30–17:00	自然科学研究機構シンポジウム 名古屋市科学館サイエンスホール	http://www.nins.jp/public_infor mation/sympo16.php
8日(土)	13:00–16:30	高エネルギー加速器科学研究所大学院説明会	http://soken.kek.jp/sokendai/a rchives/3174.html
10日(月)– 13日(木)	9:00–16:30	国立天文台スプリングスクール「春の体験入学」 国立天文台三鷹キャンパス	http://guas- astronomy.jp/springs2014.html
10日(月)	13:30–17:20	総研大学融合研究プロジェクト研究会「温度感受システムの進化生理学」 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/20140310-2/
19日(水)– 20日(木)	13:00–18:00 9:00–15:30	学術交流会 葉山キャンパス	
19日(水)	13:00–16:00	長倉研究奨励賞 発表会 葉山キャンパス	
20日(木)	9:00–10:45	長倉研究奨励賞 授与式 葉山キャンパス	
20日(木)	9:00–13:30	総研大情報基盤フォーラム 葉山キャンパス	
20日(木)	13:30–14:30	学位記授与式 葉山キャンパス	
23日(日)	13:30–16:45	総研大学融合研究プロジェクト研究会「料理の環境文化史:生態資源の選択、収奪、消費の過程が環境に与えるインパクト」 国立民族学博物館第7セミナー室	http://www.soken.ac.jp/event/20140323/
26日(水)	10:00–	生命科学研究科・基礎生物学専攻 オープンキャンパス・大学院説明会 基礎生物学研究所	http://www.nibb.ac.jp/graduate /index.html

4月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
7日(月)	12:55–14:05	入学式・学長賞受賞式 葉山キャンパス	
7日(月)– 8日(火)	14:25–14:40	総合教育科目「平成26年度前学期学生セミナー」 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/20140407_10/
8日(火)– 10日(木)	14:40–13:30	総合教育科目「総研大フレッシュマンコース」 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/20140407_10/
10日(木)– 16日(水)		総合教育科目「ミクロ・マクロ生物学 I」 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/201402micromacro/
17日(木)– 18日(金)		総合教育科目「科学・技術と社会 I」 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/201404sts1/

21日(月)– 24日(木)		総合教育科目「マイクロ・マクロ生物学Ⅱ」 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/201403micromacro/
-------------------	--	---------------------------------	---

●基盤機関の行事

3月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
11月7日(木)– 3月31日(月)	10:00–16:30	常設展示「和書のさまざま」 国文学研究資料館・展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/
2月18日(火)– 3月30日(日)		和宮ゆかりの雛かざり 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/special_03.html
2月19日(水)– 6月9日(月)	10:00–18:00	特別展「イメージのカー国立民族学博物館 コレクションにさぐる」(国立新美術館) 国立新美術館 企画展示室2E	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/powerofimg20140219/index
1日(土)– 2日(日)	10:00–17:30 9:00–16:30	国際シンポジウム「個人・家族・国家のゆくえ—文化人類学と人口学からの学際的アプローチ」 国立民族学博物館・第4セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20140301-02
2日(日)	14:30–15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第334回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon334
3日(月)	10:00–12:45	公開共同研究会「音盤を通してみる声の近代—台湾・上海・日本で発売されたレコードの比較研究を中心に」 国立民族学博物館・第6セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/iurp/11jr147_01
4日(火)– 5日(水)		国際ワークショップ「コンピュータとドキュメンテーション—民族学資料のデジタル化とその利用」 国立民族学博物館・第4セミナー室	
6日(木)	13:30–14:45	民俗研究映像「石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新—」アンコール上映会 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/others/encore140306.html
8日(土)	13:00–15:00	第363回歴博講演会「出土文字資料を追う—古代国家の実像を求めて—」 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
8日(土)	13:00–17:20	人間文化研究機構第23回公開講演会・シンポジウム「高齢期のウェルビーイングと多様な住まい方」 イイノホール	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20140308
8日(土)	10:30–17:00	第16回自然科学研究機構シンポジウム 天体衝突と生命進化 名古屋市科学館サイエンスホール	http://www.nins.jp/public_information/sympo16.php
3月11日(火)– 5月6日(火)		歴史にみる震災 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
9日(日)	14:30–15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第335回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon335
15日(土)	13:30–15:00	みんなくゼミナール「装いのセンスと伝承—中国のフィールドから」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/430
16日(日)	13:30–16:30	みんなく映画会/みんなくワールドシネマ 「人生はビギナーズ」国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies1403
16日(日)	14:30–15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第336回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon336
16日(日)	13:00–16:25	公開シンポジウム「災害と展示」 主催:国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20140316
20日(木)	10:00–	本館展示新構築:朝鮮半島の文化、中国地域の文化、日本の文化「沖縄の文化」と「多みんぞくニホン」新オープン 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/430
20日(木)	18:30–	国立民族学博物館・公開講演会「働き者と、ナマケモノ!?—『はたらきかた』文化論」 オーバルホール・毎日新聞社ビルB1	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/alp/140320

22日(土)	13:30-15:30	第180回「朝鮮半島の華花」 国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
23日(日)	13:30-16:30	記念シンポジウム 金沢大学文化資源学シンポジウム「文化資源学がめざすもの—研究・教育・国際貢献—」 主催:国立民族学博物館 学術総合センター2階中会議場(東京都千代田区)	http://crs.w3.kanazawa-u.ac.jp/info/20140214.html
23日(日)	13:00-16:50	日本天文学会2014年春季年会 公開講演会 「人は宇宙に何をみてきたのか」 主催:国立天文台 国際基督教大学 デイツフェンドルファー記念館 オーデイトリアム	http://web.icu.ac.jp/asj2014spring/public/public-lecture/
23日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第337回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon337
29日(土)	13:30-17:00	公開シンポジウム「片倉もところ先生をフィールドワークする」 国立民族学博物館・第5セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20140329
30日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第338回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon338
30日(日)	13:20-16:45	公開シンポジウム「伝統と創意—台湾原住民工芸の現在」 国立民族学博物館・講堂	

4月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
3日(木)– 4日(金)	14:00-17:00	みんなく春の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/research/sc/teacher/guidance
5日(土)	9:00-16:00	国立遺伝学研究所 一般公開	
6日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第339回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
12日(土)	13:00-15:00	第364回歴博講演会「関東大震災の記憶—震災後から90周年まで—」 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
13日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第340回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon340
4月15日(火)– 5月6日(火)		伝統の桜草 国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/plant_now.html
19日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「世界の華僑・華人と“故郷”」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/
20日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第341回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon341
19日(土)	13:00-15:00	第94回「歴史に見る震災」 国立歴史民俗博物館・歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/forum/index.html
26日(土)	13:30-15:30	第181回「趣味で桜草」 国立歴史民俗博物館・くらしの植物苑	
27日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第342回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon342
29日(火・祝),5月6日(火・祝),6月8日(日),14日(土)	13:30–	みんなく映画会「映画から台湾を知る」(上映作品『海角七号 君想う、国境の南』ほか) 国立民族学博物館・講堂	

【教員・学生の受賞情報等】

○先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 鈴木俊貴 研究員(JSPS・SPD 特別研究員)
「日本生態学会奨励賞（鈴木賞）」受賞

○物理科学研究科 機能分子科学専攻 望月建爾 学生
第4回「日本学術振興会育志賞」受賞

○生命科学研究科 生理科学専攻 中畑 義久 修了生
第4回「日本学術振興会育志賞」受賞

○複合科学研究科 極域科学専攻 小島本葉 学生
「青田昌秋賞」受賞

【編集後記】

総研大ニューズレター70号をお届けします。

2月8日(土)に、45年ぶりとも言われた大雪が降り、総研大のある葉山も真っ白な銀世界になりました。週明けにも溶けずに残った雪でかまくらを作りました。14日(金)も再び大雪になり、週明けに職員総勢で駐車場の雪かきを行いました。職員の心が一つになって雪かきを行ったので、広い駐車スペースもあっという間にできました。次の日、手首と腰が痛くなりましたが、爽快感が残りました。



3月20日には学位記授与式が举行されます。当日は快晴の天気のもと、修了生を送り出したいと思います。

広報室 T.W

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、受賞や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と標記していただけますようご協力をお願いします。

発行 2014年3月12日

編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
広報室（担当）

TEL046-858-1500/FAX046-858-1542

©2014 SOKENDAI